

株式会社アーレスティ

2016年3月期 第3四半期 決算説明資料



2016年2月25日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ 2016年3月期第3四半期決算概況
- ◆ (参考) 今期の見通し

TOPICS

■2014年

- 3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定変更
公募増資を実施
- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイلمントン増築工事着工

■2015年

- 3月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事着工
- 4月 アーレスティインディア 、ディーゼル2気筒シリンダーブロック(マルチス
ズキ共同開発品)の納入開始
- 6月 アーレスティウイلمントン増築工事竣工
- 10月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事竣工

2016年3月期第3四半期決算概況



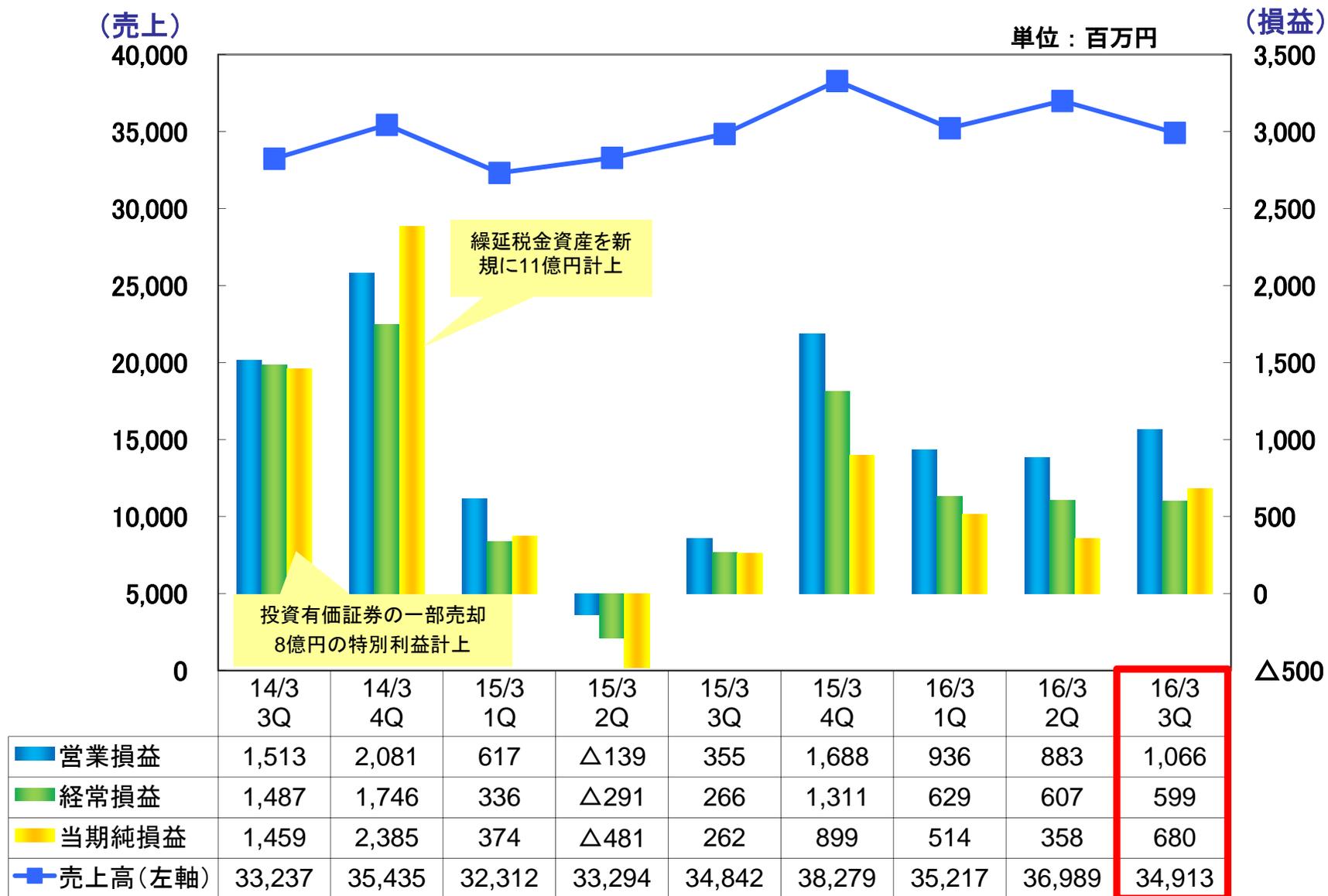
2016年3月期第3四半期決算のポイント

(単位:百万円)

	2015年3月期 第3四半期累計		2016年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	100,448	100%	107,119	100%	6,671	6.6%
営業利益	833	0.8%	2,885	2.7%	2,052	246.2%
経常利益	311	0.3%	1,835	1.7%	1,524	489.3%
四半期純利益	155	0.2%	1,552	1.4%	1,397	897.8%
EPS	6.02		60.08		54.06	

- ◆ 売上高:国内では消費増税や軽自動車増税により受注は減少傾向にあるが、円安や地金市況の影響により増加。北米は過去最高水準となる自動車販売の影響で増加。アジアは中国で日系自動車メーカーの車種別販売動向の影響により受注は減少するも為替影響により微増となるが、インドで新規部品の量産開始により売上が増加したことによりアジア全体で増加。この結果、連結売上高は1,071億円(前年同期比6.6%増)となった。
- ◆ 営業利益:国内は減価償却費の増加等により減益、北米はアメリカ子会社が黒字化したこと等により増益、アジアはインド工場が収益改善したものの中国の受注減の影響で減益。結果、営業利益28億円となった。
- ◆ 経常利益:為替差損の増加はあったものの、営業利益の改善により経常利益は18億円となった。
- ◆ 四半期純利益:営業利益、経常利益の増加により15億円となった。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

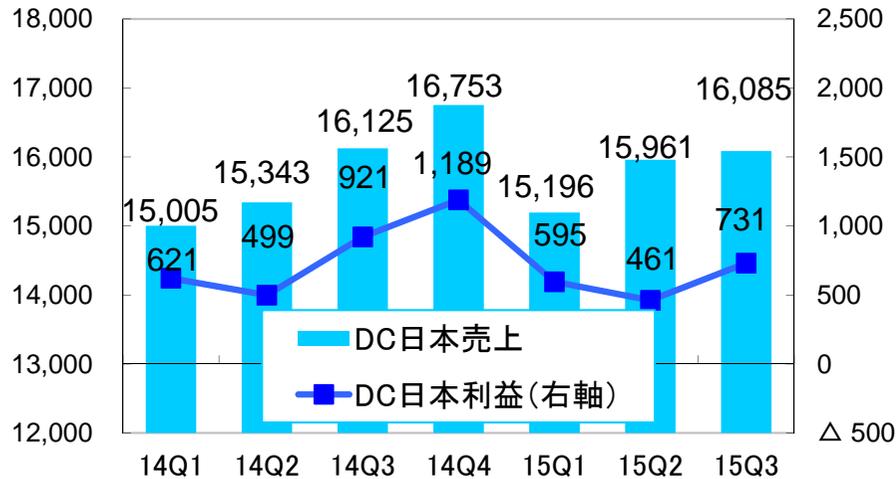
(単位：百万円)

		2015年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	増減
日本	売上高	46,473 100%	47,242 100%	769 1.7%
	セグメント 損益	2,041 4.4%	1,787 3.8%	△254 △12.4%
北米	売上高	29,058 100%	34,510 100%	5,452 18.8%
	セグメント 損益	△1,320 △4.5%	875 2.5%	2,195 —
アジア	売上高	19,878 100%	20,102 100%	224 1.1%
	セグメント 損益	208 1.0%	5 0.0%	△203 △97.4%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2016/3期1Q:54.6% ⇒ 2016/3期2Q:54.5% ⇒ 2016/3期3Q:53.6%
 ※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

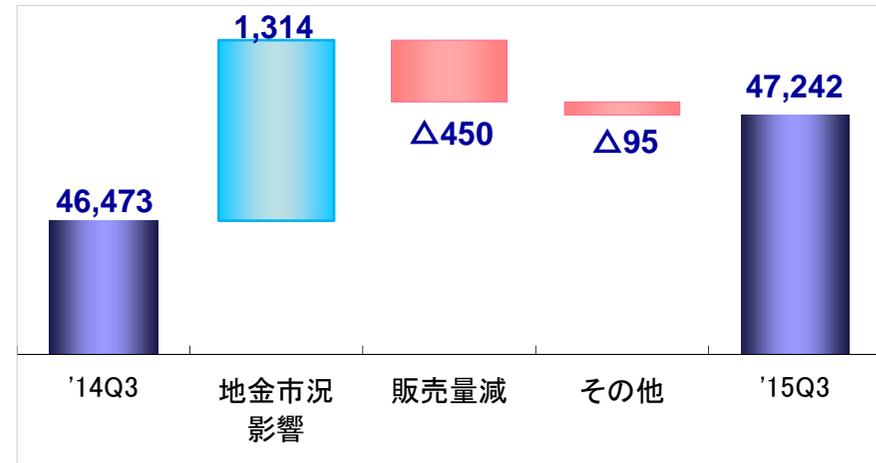
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



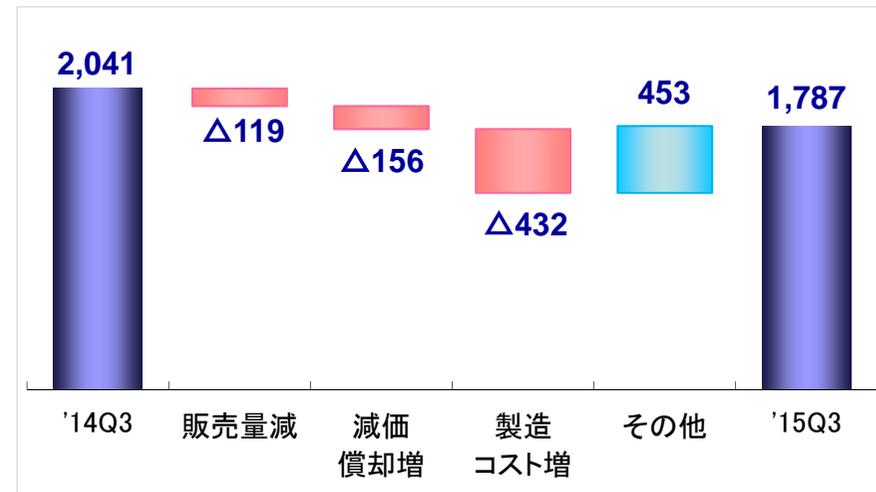
消費税増税による販売不振、軽自動車税引き上げによる国内販売の減速が続いている。一方で円安と原油安の影響を受け海外向けの輸出は好調を維持。これらの影響により受注は減少傾向にあるものの、主に地金市況影響により売上高は前年同期に対し微増。

セグメント利益は、販売量の減少の影響、減価償却費の増加等により前年同期比12.4%減となった。

売上高増減要因 (百万円)

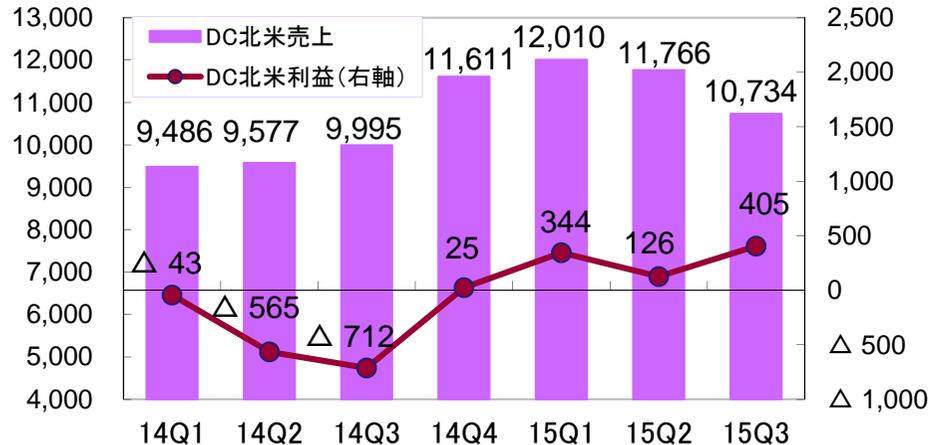


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



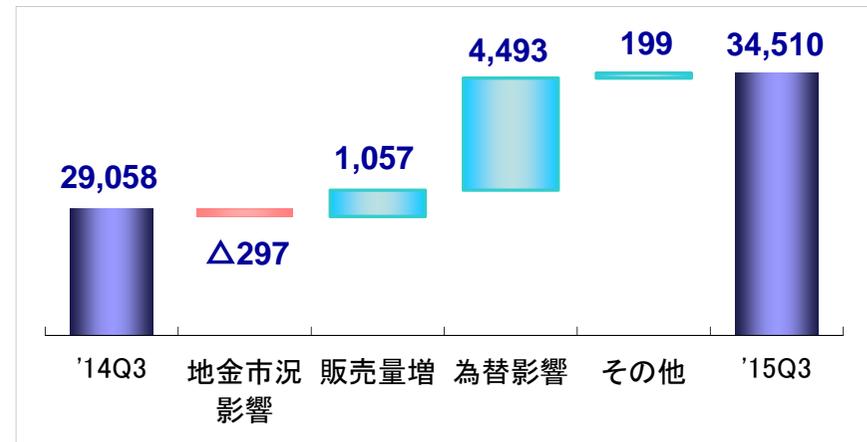
過去最高水準の自動車販売の影響を受け受注が増加。新規部品の立ち上がりや、為替影響や地金市況の影響もあり売上高が増加。生産性の改善が進み、製造コストが減少し収益を確保。

アメリカの収益は回復傾向にあり、第3四半期まで黒字を継続しているが、以前の利益水準までは回復していない。今後も継続的に改善を図る。

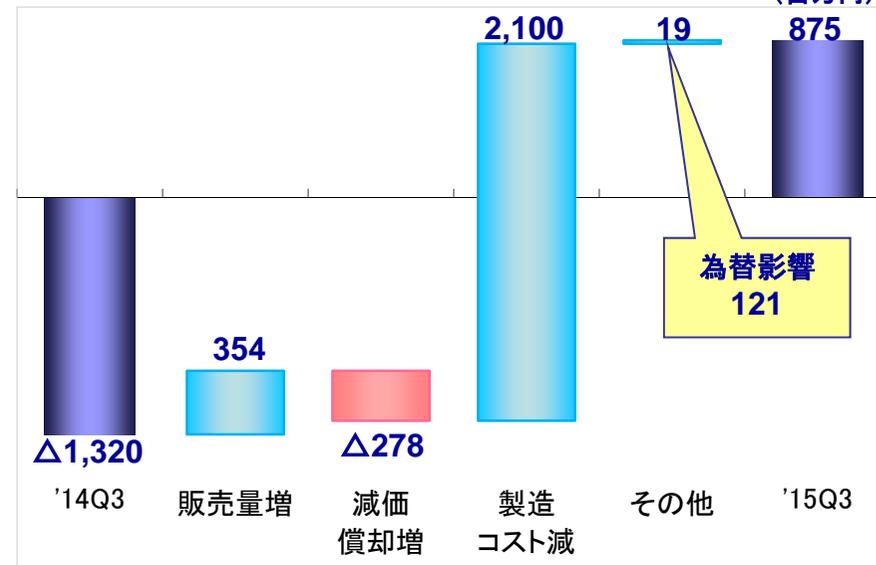
※決算期 アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(14Q3→15Q3)
米\$ 107.26→121.49
メシコ(米\$) 103.47→120.87

売上高増減要因 (百万円)

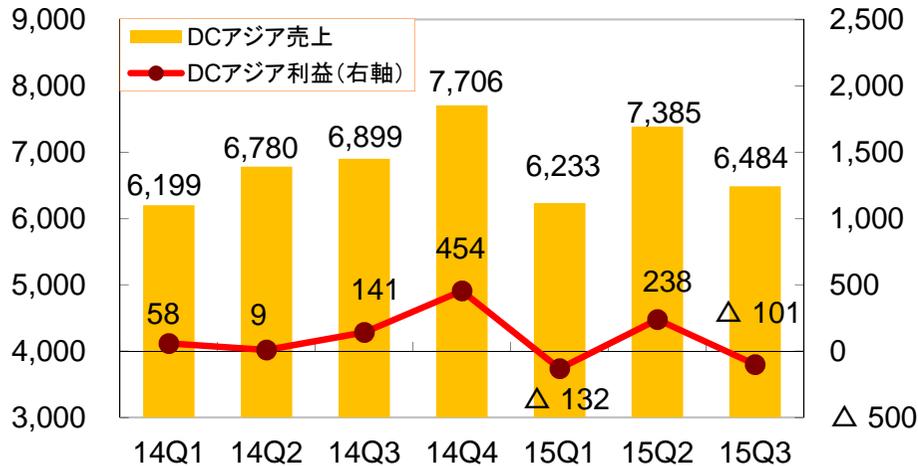


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



中国：日系自動車メーカーの車種別販売動向の影響を受け受注が減少するも為替影響により売り上げは微増。収益面では受注減の影響が大きかったものの原価低減活動により利益を確保。

インド：新規部品の量産開始等により売上高が増加。収益面でも改善が進み損失を縮小。

中国での受注減の影響があるものの、インドの収益改善効果と製造コスト低減等によりアジア全体で収益確保。

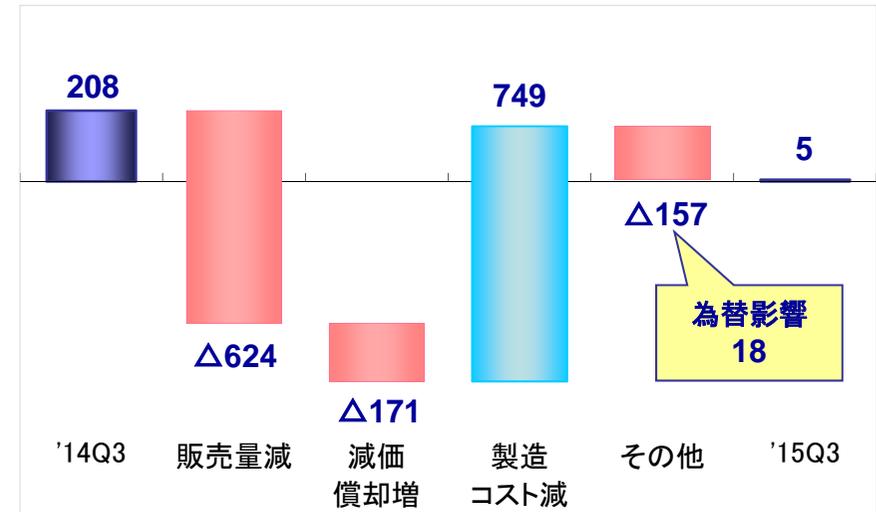
※中国1-12月
インド4-3月

平均レート(14Q3→15Q3)
人民元 16.80→19.32
インドルピー 1.77→1.88

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2015年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	増減	
アルミニウム 事業	売上	3,742 100%	3,805 100%	63	1.7%
	セグメント 損益	△27 △0.7%	229 6.0%	256	—
完成品事業	売上	1,295 100%	1,459 100%	164	12.7%
	セグメント 損益	17 1.3%	59 4.0%	42	244.7%

アルミニウム事業： 受注量は前年同期と比べ若干減少したものの、販売価格が上昇したことにより、売上高は1.7%増。収益面では使用原材料価格の下落や原価低減活動による効果によりセグメント利益は229百万円となった。

完成品事業： 主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により売上高は12.7%増。収益面では増収及び原価低減活動の効果によりセグメント利益は59百万円となった。

貸借対照表

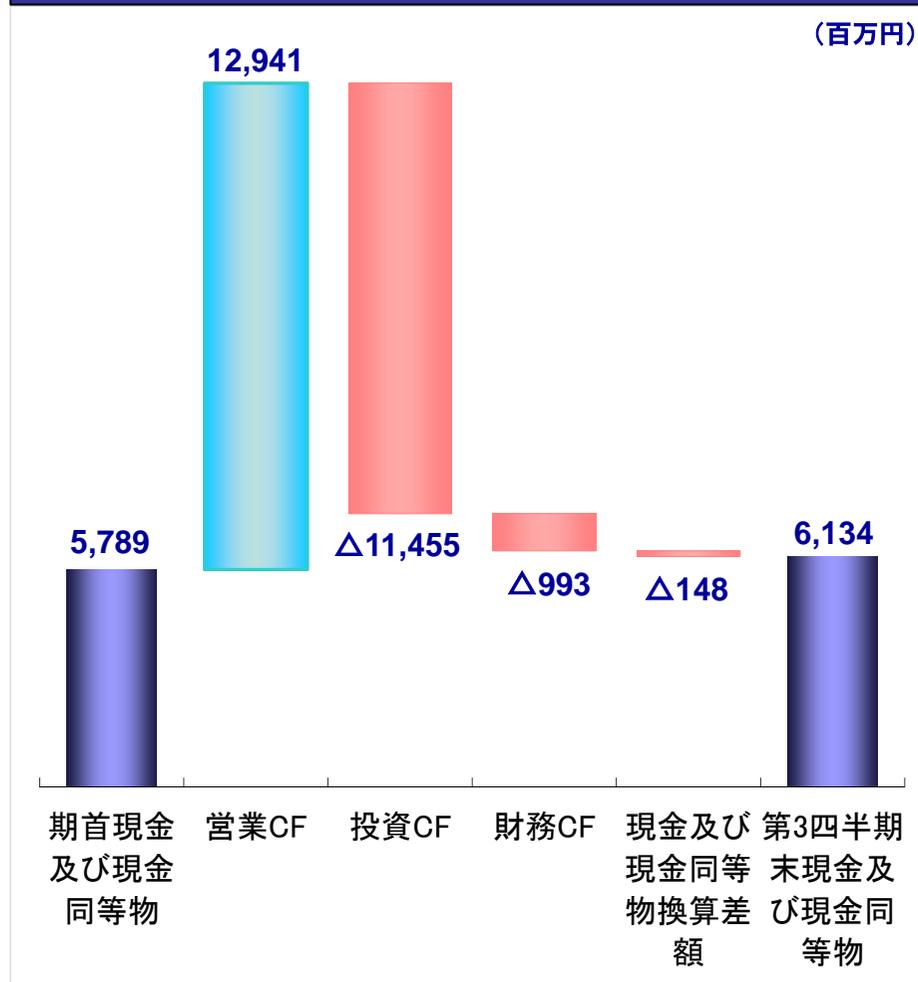
(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期 第3四半期	増減
流動資産	48,464	46,317	△2,147
現預金	5,885	6,171	286
売上債権	25,679	24,926	△753
棚卸資産	12,602	12,064	△538
固定資産	100,367	100,922	555
有形固定資産	88,133	87,729	△404
資産合計	148,831	147,240	△1,591
負債合計	86,728	84,400	△2,328
仕入債務	20,936	19,561	△1,375
長短借入金	46,838	46,144	△694
純資産合計	62,103	62,839	736
自己資本比率	41.7	42.7	

- ◆ 資産合計の為替影響は△13億円
- ◆ 中国の売上減少の影響に伴う売上債権の減少、棚卸資産の減少
- ◆ 国内外での設備投資により有形固定資産が増加（為替の影響で増減としてはマイナス）。
- ◆ 受注減少の影響に伴う仕入の減少により仕入債務が減少
- ◆ 当四半期純利益により純資産が増加

キャッシュ・フロー

2016年3月期第3四半期



(百万円)

営業CF	12,941
税金等調整前四半期純利益	1,827
減価償却費	11,178
売上債権の減少	653
たな卸資産の減少	522
仕入債務の減少	△ 1,286
未払消費税等の増加	245
法人税等の支払額	△ 1,115
その他	917

投資CF	△ 11,455
有形固定資産の取得	△ 11,301
有形固定資産の売却	20
その他	△ 174

財務CF	△ 993
短期借入金の増加	141
長期借入金の減少	△ 651
配当金の支払	△ 298
その他	△ 185

- ◆ 計画よりも抑制しつつ国内外で営業CF内で設備投資を実施
- ◆ 設備投資を営業CF内で実行したことにより余剰資金を借入金の返済に充当

今期の見通し【11月10日公表】



2016年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年3月期 期初計画		2016年3月期 修正計画(11/10)		対期初計画増減	
売上高	138,727	100%	146,200	100%	143,900	100%	△2,300	△1.6%
営業利益	2,521	1.8%	4,250	2.9%	4,200	2.9%	△50	△1.2%
経常利益	1,622	1.2%	3,300	2.3%	2,800	1.9%	△500	△15.2%
当期純利益	1,054	0.7%	2,000	1.4%	1,750	1.2%	△250	△12.5%
EPS	40.85		77.45		67.72		△9.73	

- ◆ 売上高: 国内の受注は当初計画より微減となるが地金市況影響により売上高は増加。北米ではメキシコの受注減が見込まれるが為替影響により売上高は増加。アジアでは中国の販売量減少の影響が続くと予想され売上高が大幅に減少。連結売上高はアジアの影響が大きく、期初計画に対して減少。
- ◆ 営業利益: 国内は経費節減等により増益が見込まれるが、北米及びアジアは、中国・メキシコの売上減少影響により減益。アルミニウム事業及び完成品事業の原価低減効果等による増益を加味しても連結営業利益は期初計画を僅かに下回る。
- ◆ 経常利益: 営業利益の減少に加え為替差損が見込まれることから期初計画を下回る。
- ◆ 当期純利益: 経常利益の減少に伴い減益。

前提為替レート(通期平均): 119.45円/米ドル、19.25円/人民元、1.90円/インドルピー

(期初の前提為替レート: 115円/米ドル、19.00円/人民元、1.90円/インドルピー)

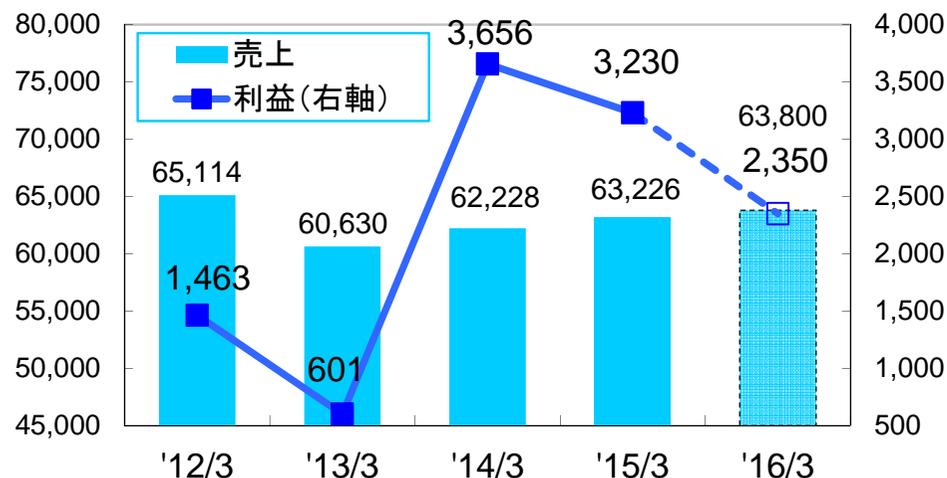
2016年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2015年3月期 実績	2016年3月期 期初計画	2016年3月期 修正計画(11/10)	対期初計画 増減	対期初計画 増減率
売上高	138,727	146,200	143,900	△2,300	△1.6%
ダイカスト日本	63,226	62,600	63,800	1,200	1.9%
ダイカスト北米	40,654	44,500	45,300	800	1.8%
ダイカストアジア	27,584	32,100	27,600	△4,500	△14.0%
アルミニウム	5,015	5,200	4,900	△300	△5.8%
完成品	2,245	1,800	2,300	500	27.8%
営業利益	2,521	4,250	4,200	△50	△1.2%
ダイカスト日本	3,230	2,200	2,350	150	6.8%
ダイカスト北米	△1,295	1,400	1,150	△250	△17.9%
ダイカストアジア	662	500	400	△100	△20.0%
アルミニウム	5	100	230	130	130.0%
完成品	83	50	70	20	40%
消去または全社	△165	—	—	—	—
経常利益	1,622	3,300	2,800	△500	△15.2%
当期純利益	1,054	2,000	1,750	△250	△12.5%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



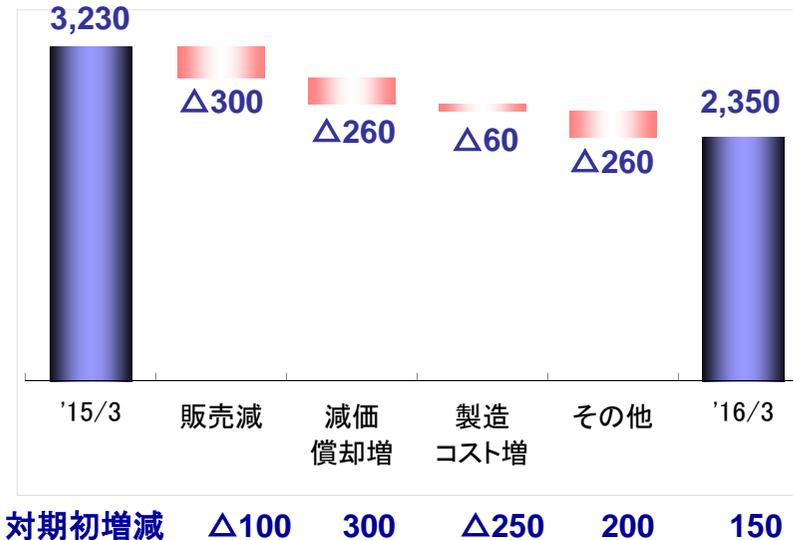
売上高: 消費増税と軽自動車税引き上げによる自動車販売の減速の影響は期初想定よりもやや悪化するも、地金市況影響が期初想定よりも増え、通期売上高は微増を予想。

利益: 販売量減少の影響や減価償却費の増加、分割回収金型の利益減少等が見込まれることから減益を予想。

売上高増減予測(11/10修正) (百万円)

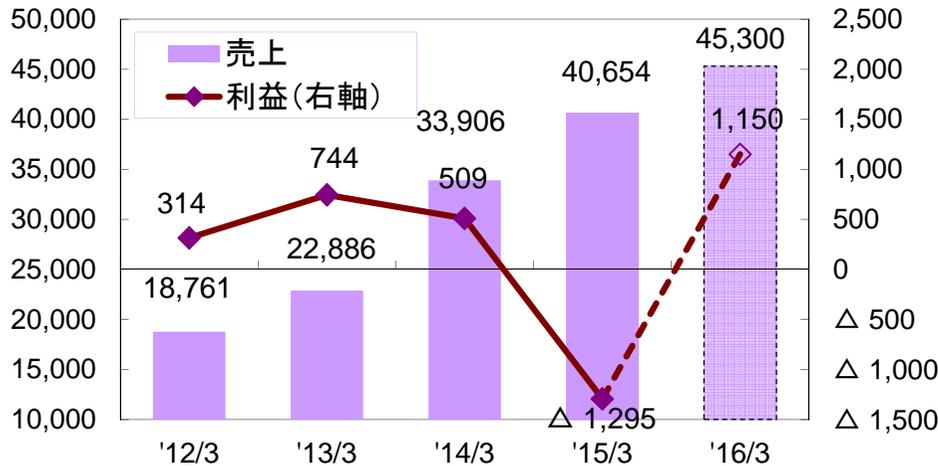


セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)



ダイカスト北米

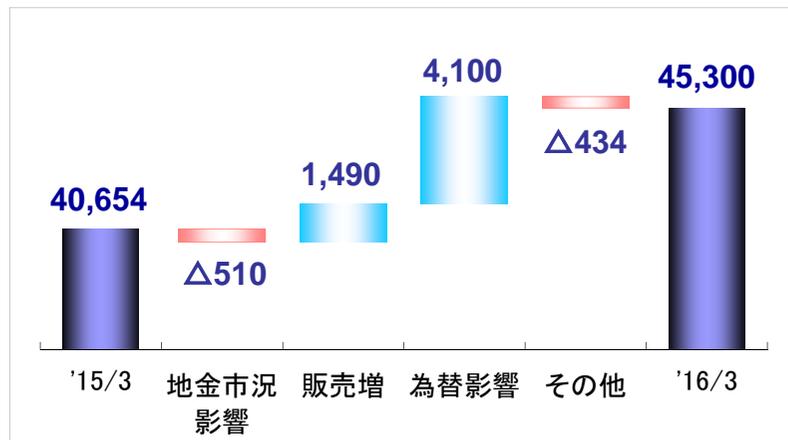
ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



売上高: メキシコ工場で期初計画よりも受注量の減少が見込まれるが為替影響等により北米全体では売上高は増加する見込み。

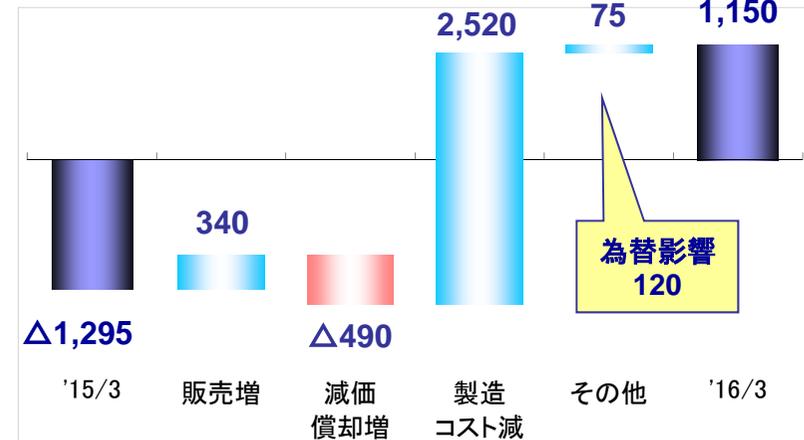
利益: 減価償却費増加の影響はあるものの、アメリカ工場の生産性改善に伴う収益回復とメキシコ工場の生産性改善効果により増益の見込み。

売上高増減予測(11/10修正) (百万円)



対期初増減 $\Delta 220$ 0 960 60 800

セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)



対期初増減 $\Delta 60$ $\Delta 70$ $\Delta 100$ $\Delta 20$ $\Delta 250$

ダイカストアジア

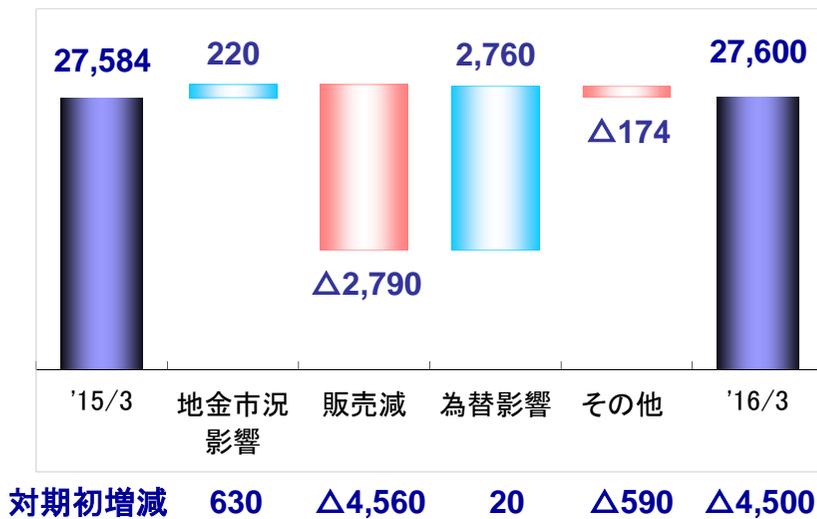
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高: 中国の景気減速が大きく影響し受注量が減少する見込みであるが、インドの受注量が増加することと為替影響によりアジアの売上高は前期並みとなる見通し。

利益: 中国の減収影響が大きいものの中国の原価低減活動やインドの収益改善により黒字は確保する見込み。

セグメント損益増減予測(11/10修正) (百万円)



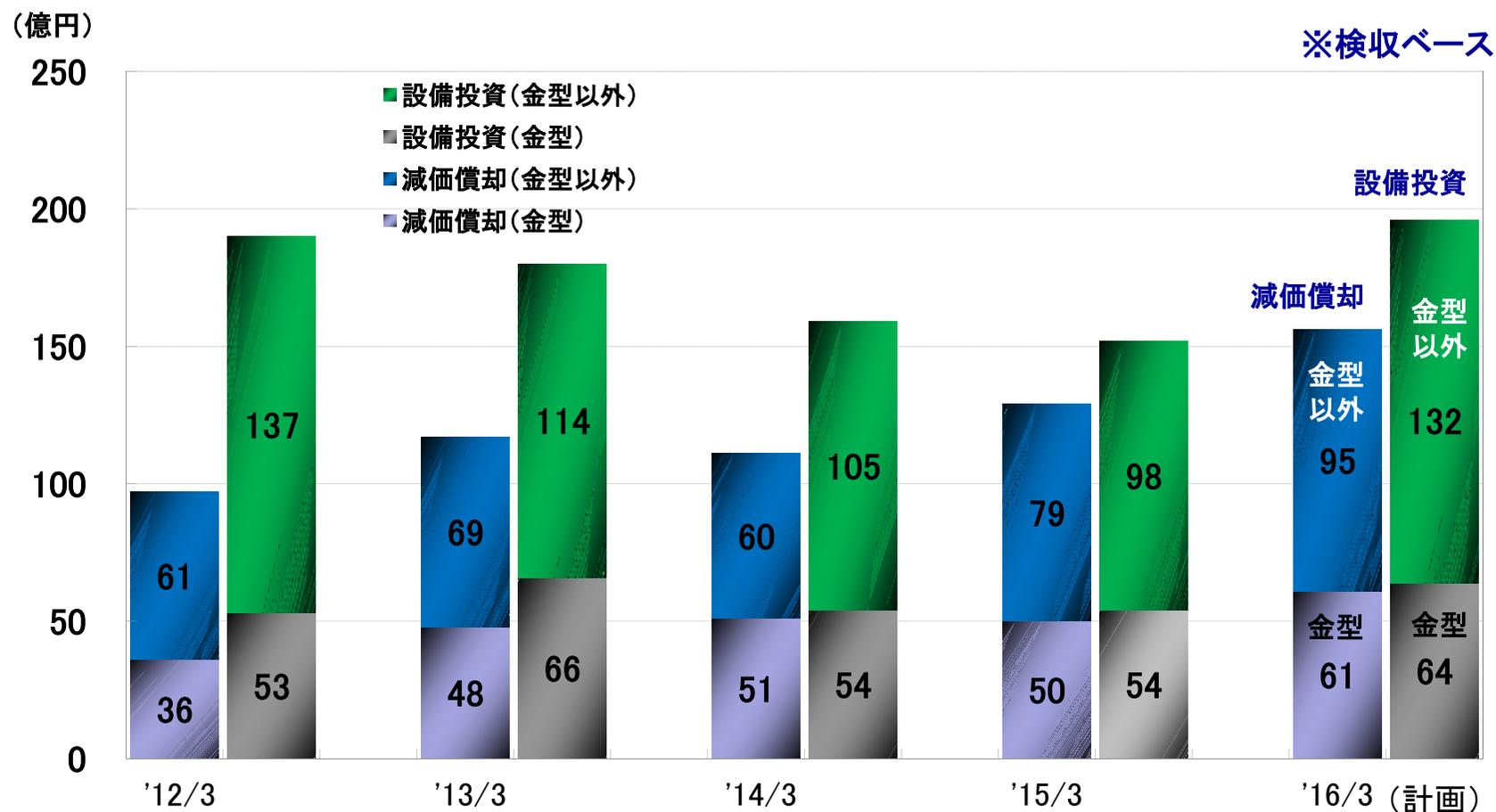
配当の状況

(単位:円)	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	6	3	14	12	12
中間配当	3	3	8	6	6
期末配当	3	—	6	6	6
一株当たり純損益(連結)	65.87	△ 7.76	287.10	40.85	67.72
配当性向(連結)	9.1%	—	4.9%	29.4%	17.7%

- ◆ 2015年3月期は、期初計画の業績を達成できなかったものの、期初予測どおり年間12円の配当を実施
- ◆ 2016年3月期は、年間12円の配当を予想(配当性向は当面15%程度を目安に)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の能力拡充等の設備投資を計画



※期初計画では金型以外の設備投資172億円を計画したが、中国を中心に受注状況を勘案して40億円削減
(金型投資は期初計画比3億円増)

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。